

概要

小児がんの治療成績は向上し、80%あるいはそれ以上の患者で治療が期待できるようになった。しかし治療が終了したあとも病気そのものや治療の影響と考えられる晩期合併症と言われる症状が出現することがある。また小児期の病気が自立した成人への歩みを滞らせることがあり、小児がん経験者に対する適切な支援は大変重要である。本シンポジウムでは小児がん経験者がよりよいQOLの基に成人として自立した社会生活を営むために必要と考えられる支援に焦点を当て、医療者と、実際に病気を経験した方からの意見をきき、今後小児がんが治るだけではなく、小児がん経験者が社会の一員として自立した生活が可能となるような支援を考えるセッションにしたい。

シンポジスト



前田 美穂 (日本医科大学名誉教授・子どもと家族のQOL研究センター理事)

1978年日本医科大学卒業。日本医科大学小児科で小児科一般並びに小児血液・腫瘍を中心に診療、研究、教育に従事。2018年3月定年退職。その後は日本医科大学付属病院小児科にて小児がんのフォローアップ外来を行っている。特に小児がんの治療成績が向上しても晩期合併症が決して少なくないことから、長期フォローアップの重要性に注目した活動をしている。



石田也寸志 (愛媛県立中央病院小児医療センター長)

1983年愛媛大学医学部卒、卒後国立がんセンターで研修を受け、抗癌剤薬剤耐性の研究と造血幹細胞移植に取り組む。2000年頃から小児がん患児・家族のQOL、2004年以降は小児がん経験者の長期フォローアップに関心を持って活動している。全国の小児がん治療終了後サバイバーシップ体制の確立を目指している。



舩本 大輔 (全国小児がん経験者ネットワークシェイクハンズ!副代表)

12歳で横紋筋肉種を発症し、1年間の抗がん剤・放射線治療を経て、無事退院した。小児がん経験者として当事者の会を運営し、2014年に各地の仲間たちと全国小児がん経験者ネットワークシェイクハンズ!を設立した。不妊等の晩期合併症に悩みながらも、多くの仲間たちや医療従事者に支えられながら日々を生活している。これからも小児がん経験者の生活の役に立てるような活動を進めたい。



上別府圭子 (子どもと家族のQOL研究センター代表理事・前東京大学大学院家族看護学分野教授)

東京大学医学部保健学科卒、同大学院にて保健学博士。臨床で多くの小児がん患者さんご家族に出会う。2015年より日本小児がん研究グループ(JCCG)長期フォローアップ委員、2017年より日本小児がん看護学会(JSPON)理事長。小児がん経験者と家族が、治療中もその後の長い生涯も、より高いQOLで暮らすことができるように応援ネットワークを築いていきたい。

参加登録

- 対象** : 「小児がんについて少しは知っているけれど、もう少し勉強したい」と思っている医療者・心理職・保育士・教師・学生さん・小児がん経験者やご家族、内科の先生も歓迎
- 定員** : 100名(先着)
- 登録期間** : 2021/8/12(木)～9/3(金) (予約制)
- 登録方法** : 右記QRコードからお申込みの上、参加費をお振込みください
- 参加費** : 3,000円(返金不可) (小児がん経験者のご家族は無料です)



参加費振込先：三菱UFJ銀行本郷支店 普通預金 0309933
一般社団法人子どもと家族のQOL研究センター 代表理事 上別府圭子

- ※ **申込みおよび参加費の振込をもって参加登録とさせていただきます**
- ※ **ご寄付も歓迎します。小児がん啓発事業に活用させていただきます**
- ※ **登録確認後、9月8日前後にZoom用URLをお知らせします**



一般社団法人 **子どもと家族のQOL研究センター**
QOL Research Center for Children and Family

▶ **お問い合わせ
ご連絡**

QRCCF事務局へのご連絡は
右記QRコードからお願いします

